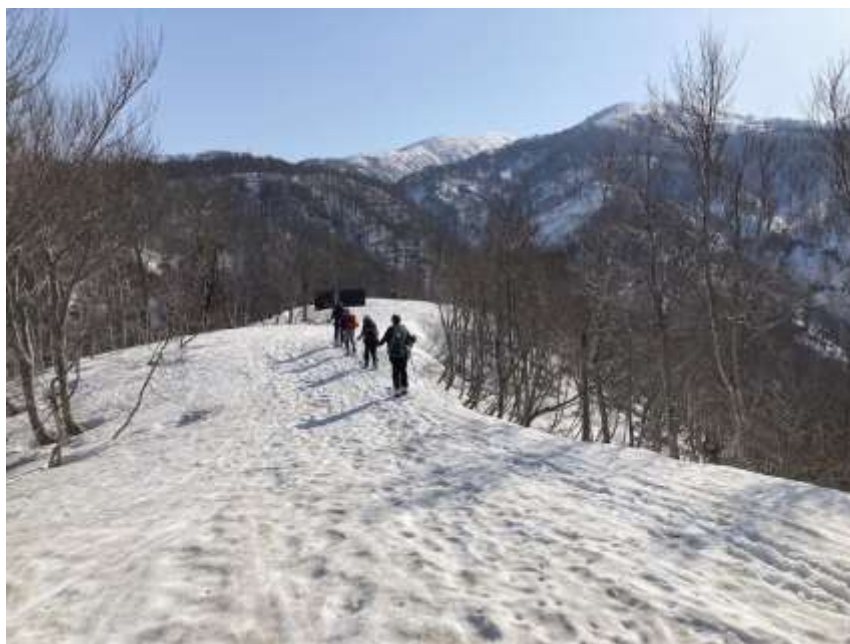


守門大岳 山スキー

T野

メンバー：T野・I崎・H口y・A原・T山（中退）・Y科（中退）

2024年4月7日



先晩はA原さんが探してくれた快適な民宿で快眠、目覚めると今日もいい天気、これは行くしかないね！！今日は守門大岳を目指す。宿から20分も車で走れば登山口の二分だ。

早出したつもりだったがすでに満車近い。何とか2台分のスペースを確保して6:10出発。最初からシールで歩け、橋を渡って林道をショートカット。さらに、もう1回ショートカットを試みるが、ここで雪が切れていて、急な法面をシートラーゲンで強引に登ったが、泥で滑ってゴアのオーバーパンツが泥だらけになってしまいモチベーションが一気にダウン。それでもここを登ると、あとは全てシールで登れた。

■写真上 二分を出発。

■写真下 長峰の稜線を歩く。

名前の通り長〜い稜線の長峰を緩々と歩くと、稜線

上に突然小屋が現れる。「保久礼小屋ってこんなところにあっただけ？」と一瞬思ったが、どう考えても記憶と違う。後でわかったが新しくできた小屋のようだ。長峰から下りに転じ、鞍部のブナ林の中に記憶通りの保久礼小屋が現れた。ここで、母川の対岸を滑っても、橋があって渡渉なしで戻れることを確認する。今回のルートはもちろん往路でも、気持ちの良いブナ林を滑れるのだが、如何せん人が多く、トレースも入り乱れていてまるでグレンデのようなのが難点だ。一方、母川右岸の尾根は意外に穴場で人が少なく疎林で気持ち良く滑れ、前回訪れた時もこちらを滑っているのだ。

さて、保久礼小屋までは言わばまだアプローチ、ここからが本番である。ところが、少し登ったところでT山さんが「靴が当たって辛い！！」ということでリタイヤを申し出る。かなり辛そうなので本人の意見を尊重し、新しくできた小屋のあたりで待っていてもらうことにして



別れる。するとキビタキ小屋付近を登っていると、今度はY科さんから無線で、「どうも足が重いのでリタイアしたい！！」と言ってきた。まあ、T山さんも一人じゃない方がいいだろうと思い、これも了解！！ということで、今日は4名で山頂を目指すことになる。グイグイ登って行くとブナ林からオープンな尾根へと変わっていく。もう山頂は近い雰囲気がビンビン伝わってくるが、実はここからまだ結構長く、標高差で約300mある。前回の記憶でここからが長かったことを覚えているので、無理せず途中で1本とって最後の登りに備える。

最後の1ピッチ、これがシャリバテで最後の方が結構きつかった。10:24 守門大岳山頂に登頂。パンを頬張り、ジュースをガブ飲みしてようやく一息つく。昨日もそうだったが、今日もテルモスは不要で冷たいジュースが旨い！

昨日より若干遠景が効きにくいですが、それでも天気は申し分なく、越後や会越の山々の景色を堪能する。守門岳自慢の大雪庇は、今年はかなり控えめで、どこにでもある普通の雪庇だ。それでも守門岳は1500m以下の山とは思えないほど雄大で大きな山塊である。

■写真上 ブナ林にある保久礼小屋。

■写真中 山頂に登るビクトリーロード！！

■写真下 普通の雪庇の守門岳。





ところで、僕は今までに黒姫・襟腰・青雲岳・大岳・中津又岳といった守門岳のピークのほとんどはトレースしたが、まだ、肝心の本峰（袴岳）だけは未踏である。いつか登りたいと思っではいるのだが何時になることやら。雪付きが悪く雪質も腐りやすい南面がルートになるので、快適さを重視するといつも候補から漏れてしまうのだ。滑りを楽しむのなら、やはり大岳周辺が楽しい！！

さて、10:50 いよいよお楽しみの滑降開始！！天気も良く折角のチャンスなので、今まで滑ったことのなかった母川源流を1本滑り、母川右岸の尾根に登り返すルートを採用。まずは母川源流を標高差約200m落す。北面なのでまだ雪が腐っておらず快適なザラメを堪能！！イヤイヤ最高じゃん！！



■写真上 守門大岳山頂にて。

■写真中 母川源流に向け滑降開始！！

■写真下 母川源流は快適な大斜面！！



対岸をひと登りで右岸尾根、ここも滑走路みたいな快適な尾根である。ところどころストップ雪もあるがまあぜんぜん許容範囲！！なにしろ人がほとんどいないのが良い。



傾斜が緩く広い尾根なので初級者にもお勧めである。この尾根は1150m付近で分岐するので、間違えないように左に母川を常に確認しながら滑るとよい。

最後は少し急斜面となって、母川に滑り降りると、目の前に保久礼小屋が現れ、雪で覆われた橋を渡れば無事往路と合流。シートラーゲンでひと登りすれば、長峰の末端にある新しい小屋。ここで、T山さん、Y科さんと合流。ここからは消化試合だが、それでも滑って帰れるのが嬉しい。最後は往路のドロドロ斜面を嫌い、迂回ルートを探る。「北の国から」に出

てきそうなサイロがある雪原の台地で若干スキーを漕ぐのは鬱陶しいが、ロケーションは良く、泥まみれよりマシである。林道が下りに転じ、傾斜が出てくれば自動運転で車デポ地まで一直線だ。

■写真上 滑降した母川源流を振り返る！！

■写真下 母川右岸尾根も広くて快適に滑れる！！

A原さんは昨日の北岳よりこちらがお気に入りのようで、お初の守門を楽しんでくれたようだ。T山さん・Y科さん、まだまだ一緒に遊びたいので、太ももの筋肉鍛えてくださいね！！



今度はぜひパウダーシーズンに訪れてみたい！！
そういえば、2018年の報告を読むと同じことが書かれていた。今度こそ冬に来よう！！

最後にいつもながら、ご同行いただいたメンバーに感謝です！！
山スキーシーズンもあとわずか、最後まで楽しみましょう！！

■コースタイム

二分 (6:10) ~ (8:18) 保久礼小屋 (8:31) ~
(9:14) キビタキ小屋 ~

(10:24) 守門大岳 (10:50) ~ 母川北面滑降 ~ (10:55) 1245m (11:03) ~ (11:15) 母川右岸尾根 1300m付近 (11:23) ~ (11:50) 保久礼小屋 (11:55) ~ (12:00) 新しい小屋 (12:05) ~ (13:03) 二分



- 写真上 母川右岸尾根の下部は快適なブナの疎林。
- 写真下 今回の軌跡。